

(5) 2021年(令和3年)6月25日 金曜日

突きん棒漁を学ぶ

魚を普及
させる会

オンラインで授業

気仙沼

気仙沼の魚を学校給食に普及させる会(白井壯太郎代表)は22日、市内の小学校を対象にした食育授業を行った。児童たちがオンラインで突きん棒漁師の講話を聞き、メカジキ漁への理解を深めた。

唐桑町の第38漁徳丸船主、小野寺庄一さん(46)が講師を務め、鹿折小での授業の様子を気仙沼、九条、唐桑など7小学校に中継。鹿折小では5、6年生71人が参加した。小野寺さんは「メカジキ漁は6、9月にか

け、北海道沖合などで「行う」と説明。海水温の変化を見ながらメカジキの漁場を決め、漁獲方法については「海面に現れたヒレに向けて銚(もり)を投げる。体を突いたら銚から電流を流し、仮死状態にしてから船に揚げる」と語った。

児童からは「取れるメカジキはオスとメス、どちらが多いか」などの質問があり、小野寺さんは「メスが圧倒的に多く、オスはごくまれ」などと答えた。

小野寺さんが使用している長さ5センチほどの銚を持ち上げる体験もあり、児童は歯を食いしばりながら重さを実感していた。

同校6年の小松絆玖君(11)は「銚はとても重く、力がないと持

銚の重さを実感した

てない。捕獲されるメカジキはメスが多いことも分かり、勉強になった」と話した。

